

## 第1回 学校活性化協議会 議事概要

日 時	平成30年5月18日（金）19時00分から20時50分
場 所	三重県立白山高等学校 会議室
出席者 (敬称略, 50音順)	赤塚久生（白山高等学校長）・岩崎忠弘（同窓会）・岡田偉久（白山高等学校PTA）・ 垣野哲也（津市交通政策課）・小西正彦（白山高等学校教諭）・ 田中伸明（三重大教育学部教授）・寺井一栄（リバーパーク真見管理組合）・ 中西孝一（嬉野中学校長）・服部 滋（白山中学校教諭）・服部 瞳（白山中学校PTA）・ 丸山康郎（美杉中学校長）・吉田健一（学校運営協議会）
議 事	1 平成30年度の協議について 2 白山高等学校の現状と課題について 3 平成30年度活性化プランマネジメントシートについて
議事概要	<p>白山高等学校の活性化に係る平成30年度の主な取組や方向性等について、協議を行いました。</p> <p>主な内容等は、次のとおりです。</p> <p>1 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日は、お忙しいところ、お仕事でお疲れのところ、白山高校第1回活性化協議会に御出席をいただき、誠にありがとうございます。また御参加の皆様におかれましては、日頃より白山高校の教育活動の推進に際しまして、多大なる御理解と御支援をいただきまして、誠にありがとうございます。この場をお借りまして、お礼を申し上げます。さて、白山高校は本年度で創立60年を迎えました。60年の節目で本校では制服の改定、また教育課程の改善、学習内容の改善を行ったところです。また、平成25年度から地域とともに学校を作るコミュニティ・スクールとしての指定を受け、本年度で6年目となります。地域の方々の御意見や御協力をいただきながら、様々な取組を進めているところです。その様々な取組によりまして、本校では部活動が活発になり、生徒も落ち着いた雰囲気の中で学習活動に取り組むことができていると感じているところです。現在本校では、人口減少に伴い地元の白山中学校や美杉中学校からの入学者が減少し、JR名松線やコミュニティバスを利用して遠方から通学する生徒が増加しております。平成31年度からの3年間は中学校卒業者の減少が見込まれ</li> </ul>

ており、県立高等学校においては大幅な学級減が予想されます。白山高校では、三重県教育委員会が策定しました県立高等学校活性化計画に基づき、学校の活性化に向けて、本日御参加いただいている活性化協議会のメンバーの皆様から御意見をいただき、役割を分担しながら具体的な方策を検討して、選ばれる学校作りを進めてもらいたいと考えております。子どもたちにとって安心できる環境や達成感と自己肯定感を感じることができる機会を作り、子どもたちが夢や目標に向かって意欲的に取りくめる学校作りを進めるために、様々な角度から御意見をいただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

## 2 自己紹介

<座席の着席順に、各自の所属と名前を言って、自己紹介>

## 3 確認事項

- (1) 白山高等学校活性化協議会設置要綱 別紙資料により説明・確認
- (2) 平成29年度白山高等学校活性化協議会概要 別紙資料により説明・確認
  - ・ この後の進行は、設置要綱第4条の第1項に基づき、議長は本校校長の赤塚が務めますので、お願い申し上げます。

## 4 副議長の指名

- ・ この後の進行は私の方でいたします。要綱に基づいて、副議長を指名します。副議長は、昨年度に引き続き、学校運営協議会の吉田委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。
- ・ 昨年度の1年間に引き続きまして、副議長を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。

## 5 報告事項

- (1) 学校運営協議会について 別紙資料により報告
  - ・ 学校運営協議会と学校活性化協議会との住み分け
- (2) 平成30年度学校マネジメントシートについて 別紙資料により報告
- (3) その他 特になし

## 6 協議事項

- ・ ここからは項目に分けて、御協議をさせていただきたいと思っております。忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。

(1) 平成30年度の協議について 別紙資料により説明

- ・ 事務局から平成30年度の協議についてということで、説明がありました。学校活性化協議会が活性化に取り組み、地元からの志願者の増加をめざすことが大きな目的であると言うことを、この場で改めて確認をさせていただきたいと思います。また委員の方々におかれましては、本日を含めて3回の学校活性化協議会への御出席をお願いしたいと考えているところでございます。具体的な概要については、説明させていただきましたとおりでございます。計画通りで行きますと来年度は最終年度になるということです。今説明していただいたことで、何か御質問や御意見も含めて、お伺いしたいと思います。

\* 質問なし ———— 了承

(2) 白山高等学校の現状と課題について 別紙資料により説明

- ・ 進路関係については、直接担当しております進路指導部から説明してもらいます。

<進路指導部から、進路状況を説明>

<事務局担当から、入学者状況を説明>

- ・ この後具体的に活性化に向けて、こんなことをしてはどうかとか、今の取組はどうかとか、そういった話をいただく訳なんですけど、前提となる白山高校の現状と課題について、それと併せまして進路状況と入学者の状況あるいは選抜の方向性など、そういったところについても事務局から説明がありました。一括してお伺いしたいと思います。今説明していただいたことについて、御質問あるいは御意見などがありましたら、よろしくお願いします。
- ・ 公務員が2名ということですが、市とか県とかの内訳は、どうですか。
- ・ 自衛官2名です。
- ・ 提案になるのかも知れませんが、昨年度の入学者選抜において、一挙に58人の志願者の増加がありましたが、その理由は何ですか。
- ・ コミュニティバスの増発については、学校活性化協議会での議論が成果を出したのではないのでしょうか。
- ・ 伊賀方面からの生徒が増加したからでしょうか。コミュニティバスに乗る伊賀地域からの生徒はどれくらいいますか。JR名松線を使う生徒はどれくらいですか。美杉からはどれくらいの生徒が通学していますか。近鉄の川合高岡駅からJR一志駅に乗り換える生徒はどれくらいいますか。
- ・ 本年度、情コミ科の志願者が増加したのは、なぜですか。
- ・ 一定、前期選抜の志願者の中に、運動部を中心に「本校で頑張りたいなー」と思う志願者が増えたと推測しています。現実に部活動の加入率も、非常に高い数値が出ています。今までの2・3年生に比べて4月の初期の登録時の段階ですが、かなり高いと思います。1年生全体では84%が登録していて、2つの部活動を兼ねて

いる場合もあります。84%ということで、これまでは70%を超えなかったです。60%台であったと思います。この後で出てくるマネジメントシートの目標は、70%以上ですので、すでに若干超えている状況です。やはり本年度の入学者の部活動への意識の多くは、白山高校に入ってから運動部を中心に部活動を頑張っていると考えている志願者が多かったのではないかと考えています。

- ・ 情コミ科の志願者が増えたバックデータはないですが、情報コミュニケーション科ですので、商業科の資格が取れることもあったのではないのでしょうか。制服も変え、教育課程も変えました。普通科でも情報コミュニケーション科であっても、ほぼ同じ学習内容になりました。その中で、情報コミュニケーション科ですと、商業に関する資格が取れるので、情コミ科を選んでもらったかなと考えています。
- ・ 学校側としては、部活動であったりとか、入学選抜の方法であったりとか、資格取得であったりとか、理由があつて増加したのではないかと言うことです。せっかくなので、中学校の校長先生がみえますので、いかがでしょうか。なぜ増えたのかなど、感想で結構ですのでいただけるとありがたいです。
- ・ 今年度は7～8名、毎年卒業生の5%ぐらいがお世話になっています。例年、白山高校を何とかしようということで、担任が最終の詰めで話をしています。もうすぐ、第1回の進路希望調査を取りますが、その時から最終的に増加する傾向があります。今年度は卒業生が175名いるので、10数名がお世話になると思っています。
- ・ 転勤してきたばかりでよくわかりませんが、今年度3名が入学している。地元ということで学校も努力をしているとは思いますが。
- ・ 白山高校は、地元の学校ということもあり、安心して行けることが、何より一番大きいと思います。いろいろなことを知ってもらえるということも大きいと思います。この子はこんな生徒で、白山高校でお世話になっても、大丈夫だという安心感があります。それから、朝の交通指導をしている時ですが、白山高校の生徒さんが大きな声であいさつをしてくれます。いい傾向であると思います。
- ・ コミュニティバスの増発についても、どうでしょうか。確かに増えた分だけ通学しやすくなったと思います。コミュニティバスは、名張方面からの生命線であると分かりました。学校活性化協議会で昨年度、話をさせていただいて、現状の1本では十分ではないというところがあつて、津市さんに御無理をお願いしました。ずいぶん話を聞いていただいて、増便を図っていただきました。今後、昼間の時間帯にも増便をお願いしたいと考えているところです。そのあたりも、学校活性化協議会で話をしていければ、いいのかなと思っています。名松線を軸として考えるべきであると、県議会議員さんが訪問していただいた時に、学校を活性化するには、通学の手段である鉄道からしっかりと活性化するという視点が重要であるという御助言もい

ただいています。白山高校につきましては、名松線で通学できる範疇を地域としてとらえ、その周辺にある中学校さんとしつかりとした関係性をつくりながら、教育活動を公開して、信頼関係を作りつつ、進路指導にもつなげたいなど思っているところでもあります。また具体的に、名松線の活性化を学校としても取り組む方法があるようにも感じていますので、引き続き御意見をいただければと思っています。

- ・ 他はどうでしょうか。現状と課題、進路状況、入学者の状況につきまして、何か御質問か、何かお聞きしたいことがありましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(3) 平成30年度活性化プランマネジメントシートについて 別紙資料により説明

- ・ まず、めざす姿と活性化の方向性につきまして、御質問や御意見はありますでしょうか。
- ・ 本年度の卒業生が94名、さかのぼって入学者が105名ですね。そうすると卒業された方が入学された方の90%、だいたい1割の方がリタイヤしていることとなります。その数を減らすのが課題かなと思ひます。今までの統計を取って見ないとわからないと思ひますが、今の現状で見るとほぼ1割の方が、学校のやり方に何かがっかりしたのか、方向性が違つたのか、そういう生徒さんを一人でも出さないようにしないといけないのかなと思ひます。それをマネジメントシートの中に、卒業率100%とまでは、なかなか難しいとは思ひますが、入学定員の充足率95%は楽々クリアしているのであれば、次に95%の卒業率という目標を掲げてもいいのかなと思ひます。
- ・ 卒業率が90%ぐらいあるという現状で、卒業率を95%を目標にしてはという御意見をいただいています、いかがでしょうか。
- ・ 私も白山高校に通つていて、20数年ほど前にリタイヤした一人です。その頃から10%ぐらいはリタイヤしていたと思ひます。同級生も1学期に減り、2学期減り、3学期減りとだんだん減つていきました。同じ理由ではないと思ひますが、どうしても学校がつまらなくなつてしまう場合と子どもたちが学校までの道中が遠いので、行くだけでも結構な労力が必要になると思ひます。その中で1時間を掛けて来て、つまらん学校だつたら来たくなくなるのではないのでしょうか。来たくなくなるような学校、来たくなくなるような授業、母親の立場としては先生がちょっとした工夫をしていただだけでも勉強が楽しくなるのではないのでしょうか。勉強が楽しくなると学校にも行きたくなるし、部活動だけができてさみしいのではないのでしょうか。私の娘も今年受験で、正直、娘には「白山高校に行かんとき」が口癖です。普段、上の子を迎えに行く時とか、白山高校の野球部の子が一生懸命、暗い中、自転車近鉄榑原温泉口に向かつていく姿とか、その同級生が白山高校でバレー部を立ち上げ、頑張つている姿を見ると違つたのではないのでしょうか。地域に見えるように、開

かれた学校にもっとしていただければと思います。

- ・ ありがとうございます。魅力ある授業づくりであったりとか、PRとか、話の中身が具体的な取組と評価に入ってきていただいています。学校として、しっかりと取り組んでいかなければならないことも多いと思います。その一つの成果を図る指標として、卒業率を入れてはという御意見がいただけたと考えています。他はいかがですか。全般で結構ですので、よろしくお願いします。
- ・ 真見の里でのイベントに御協力をいただき、ありがとうございました。学校を活性化していくことについて、具体的な取組を考える必要があると思います。
- ・ 私が着任して1ヶ月程ですが、部活動の活性化は大きいですね。これと交通の分野でどう関係があるのかなということですね。そして一つは、JR名松線が重要な路線であると言えます。今後とも、赤字路線を維持していくのは難しい中で、この地域はJR東海ですが、JR東日本やJR西日本などとは違うのは、赤字路線を廃止しているかどうかです。JR東海では廃止をしていないというのが一つの特徴なのかなと思います。先程の部活動の活性化の中で、私の推測なのですが、野球部が強くなる中で、おそらく強い高校になるとそこの高校に対戦してほしいと来られることがあると思います。山高や山商が乗って来てもらうと、それも活性化につながっているのかなと思います。赤字路線を少しでも乗っていただくということは大切なことだと思います。
- ・ 私どもも、活性化という形でいろいろなイベントを行っています。特に美杉地域で開催しています。そういった部分も、影響があるのかなと考えています。部活動が活性化していただけると、様々な部分でメリットがあると思います。
- ・ もう一つは、バスを増やしてほしいという中で、津市というよりは、全国的な部分であるのですが、一番の悩みは公共交通機関、特にバスの運転手が不足している現状があります。どちらかという、全体的にバスの路線を減らしているところが多いです。解決策として路線のダイヤを減らしている中で、私どもも高齢者の外出支援を含め、どのようにしていこうかと苦労しているところです。ですから、先程、就職の話も出ていましたが、運転手にも目を向けて欲しいと思います。そうすれば、運転手不足も何とか助かるのかなと思います。交通分野の現状としては、そういったものがあります。学校側としても、コミュニティバスの朝の増便の中で、いろいろとお考えいただいているとは思いますが、どうしても学校へ登校するぎりぎりの時間に乗りたくないということもあるとは思いますが、部活動の方で、少しでも早く来たい人は、もう1本早いバスに乗っていただくなど、いろいろとお考えいただきたいと思います。コミュニティバスには苦労していただき、維持していただいているので、今のところは特に問題はないように聞いています。今後、そういった点を工夫していただき、みなさんの便利なようにしていきたいと思っています。

- ・ 課題というか、現状なども聞かせていただいたのですが、学校の進路指導に関わる部分もありました。そのあたりを意識しながら、今後取り組ませていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。
- ・ 全般を通して、何かありますでしょうか。
- ・ もし平成31年度から、3クラスから2クラスになると、120名から80名となり大きな減少になります。お聞きしたいのは、県として1学級は40名と決まっているのか、それを増やせるのか、お聞きしたいと思います。たとえば、40人を50人にして、2クラスとするとか、そういうことは将来的にはできるのでしょうか。
- ・ 国として、教員の配当があり、40人を1クラスの単位であると考えています。他県では、1年生で少しでも高校になじむようにということで、35人学級で始めたりしているところがあります。それは別に、県で別予算対応をするという形になります。基本的にはほとんどの県は40人です。それで教員が配当される訳です。その中で少人数講座を工夫して組んでいるということは当然ありますが、基本的にはそういう状態になります。
- ・ たとえば、50人を2クラスというのがありましたが、仮に50人のクラスを4クラス作ったとした時は、40人のクラスを5クラス作ったのと同じになります。後は、学校の中でどうマネジメントするかということになります。
- ・ どこを減らしていくか、白山高校はどうやって3クラスを維持していくのか、どうやって確保していけば学校を活性化していくことができるのかを議論していただきたいと思います。50人云々とか手法的なことは考えられますが、そういうこと以外で、具体的な活性化策を今は考えていかななくてはならないと思います。いかがでしょうか。特になければ次に進みます。その他、何か事務局ありますか。
- ・ ありません。
- ・ 委員の方々、何かございませんか。
- ・ ないようでしたら、長時間、御意見の方を頂戴いたしまして、ありがとうございます。また、ここでは話ができなかったけど、これはというのがありましたら、御連絡をお願いしたいと思います。

## 7 連絡事項

(1) 第2回活性化協議会 平成30年10月19日(金)19:00を予定

(2) その他